文化・スポーツ対策特別委員会資料７
平成 29 年（2017 年）10 月 4 日（水）
県民生活部スポーツ局

（仮称）彦根総合運動公園第１種陸上競技場建築基本設計の検討状況等について

１　公園整備事業の経過

平成 27 年 12 月：公園整備基本設計に着手

平成 28 年 2 月～7 月：（仮称）彦根総合運動公園第１種陸上競技場建築検討懇話会の開催（計３回実施）

9 月：公園整備基本設計の取りまとめ（別添のとおり）

平成 29 年 3 月：公園整備実施設計に着手

：第１種陸上競技場建築基本設計に着手

２　第１種陸上競技場建築基本設計の検討状況

（１）第１種陸上競技場建築基本設計のコンセプト（別添パース図参照）

①コンパクトな競技場

- メインスタンドの観客席を２層構成とすることにより幅を縮小
- メインスタンドに架設する屋根の範囲を縮小

②歴史、景観に配慮した競技場

- 外壁は伝統的な技法である真壁造や下見板張り風のデザインを採用
- 外観は城下町の景観と調和した落ち着きのある色調を採用
- 百間橋をモチーフにし、連続で櫓形状に構成する柱と梁を採用
- 屋根の先端付近に照明設備を設置（照明柱は設置しない。）
- 西側住宅地からの距離を離し、樹木を植栽して圧迫感を低減
- 屋内仕上材等に県産材等を活用

③周囲を自由に回遊できる競技場

- ２階レベルに回遊できる歩道空間（スタジアムリング）を設置
- ４カ所の屋外階段とスロープを設け、スタジアム内外のアクセスを向上

④環境負荷の縮減を図る競技場

- 風の流れを考慮した自然換気を採用
- 屋根の雨水を集水し、フィールドの芝生散水に活用
- 遮光壁やスピーカーの分散配置により近隣の住環境負荷（光漏れ、音漏れ）を低減

⑤安全で安心な競技場

- 地震発生時に倒壊しないよう建物の耐力（必要保有水平耐力）を 1.25 倍割増
- 災害時の緊急輸送機能や避難施設としての機能を確保するため自家発電装置を設置
- 発災時には雨水をトイレ洗浄水等に活用

（２）第１種陸上競技場の主な仕様

①施設の規模

- 整備面積：約３．９ｈａ
- トラック：４００ｍ×９レーン（全天候舗装）
- フィールド：１０６ｍ×６９ｍ（天然芝、サッカーやラグビー等多目的に利用可能）
- 収容人員：15,000 人以上、固定席：メインスタンドに 7,000 席程度

②スタジアムの主な構造

- 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造５階建て（バックスタンドは２階建て）
- 最高の高さは２４ｍ程度
- メインスタンドは２層式

- メインスタンドとバックスタンドの観覧席の全面に鋼板製の屋根を架設
- メインスタンドとバックスタンドにエレベーターを設置
- 北側に大型映像装置を設置

③諸室の配置

1Ｆ：エントランスホール、更衣室、会議室、事務室、情報処理室、記者室、記者会見室、ドーピング検査室、器具庫、雨天走路、トレーニング室など

2Ｆ：倉庫、売店、観覧席、コンコースなど

3Ｆ：観覧席、倉庫、コンコースなど

4Ｆ：貴賓室、観覧席、コンコースなど

5Ｆ：放送室、写真判定室、指令室、大型映像装置操作室など

3　今後の主な予定

平成 29 年 10 月下旬：住民説明会等（解体工事およびスタジアムの検討状況）

：彦根総合運動場現有施設の解体工事に着手

12 月下旬：第１種陸上競技場建築基本設計の取りまとめ

平成 30 年 2 月下旬：公園整備実施設計の取りまとめ

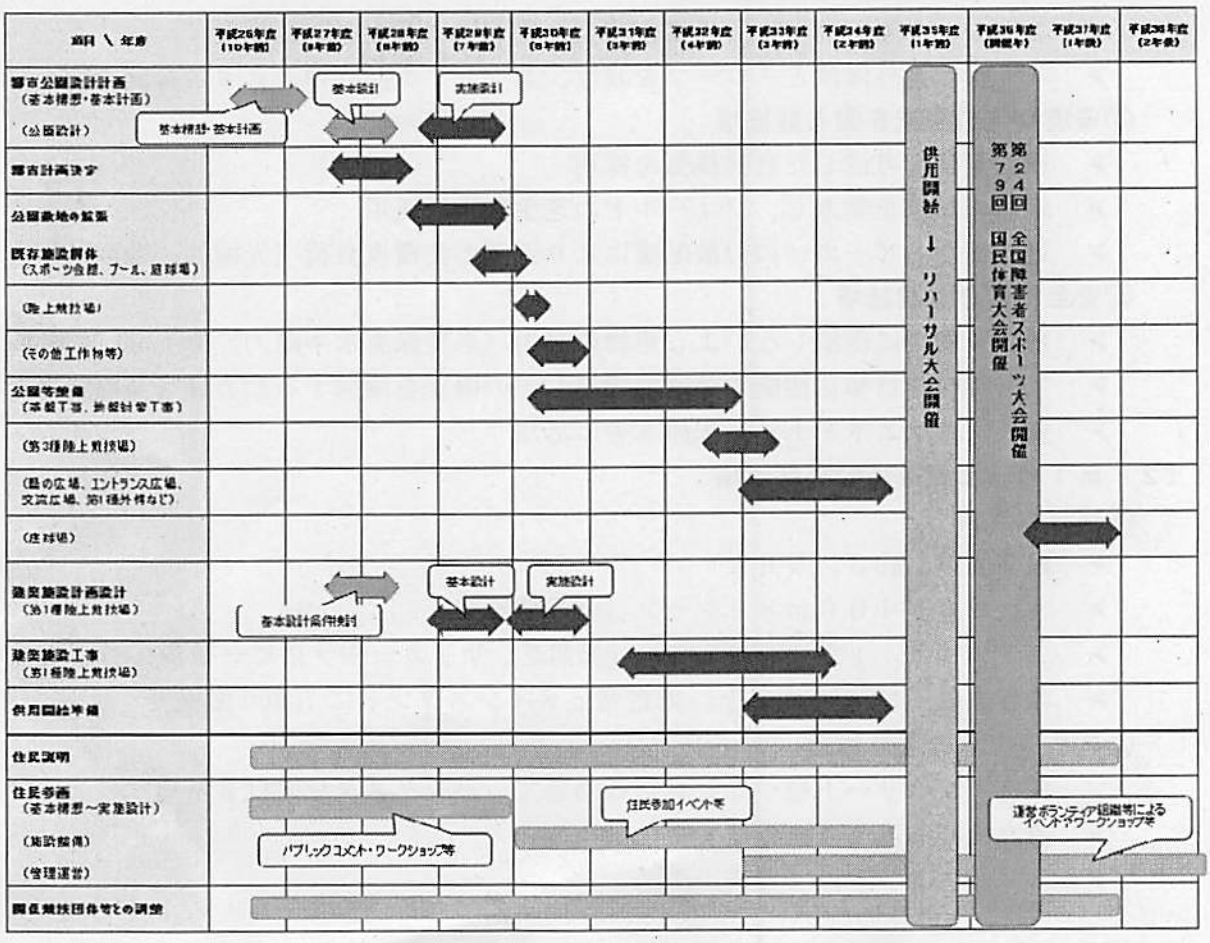
3 月上旬：第１種陸上競技場建築実施設計に着手

平成 30 年度　：公園整備工事に着手

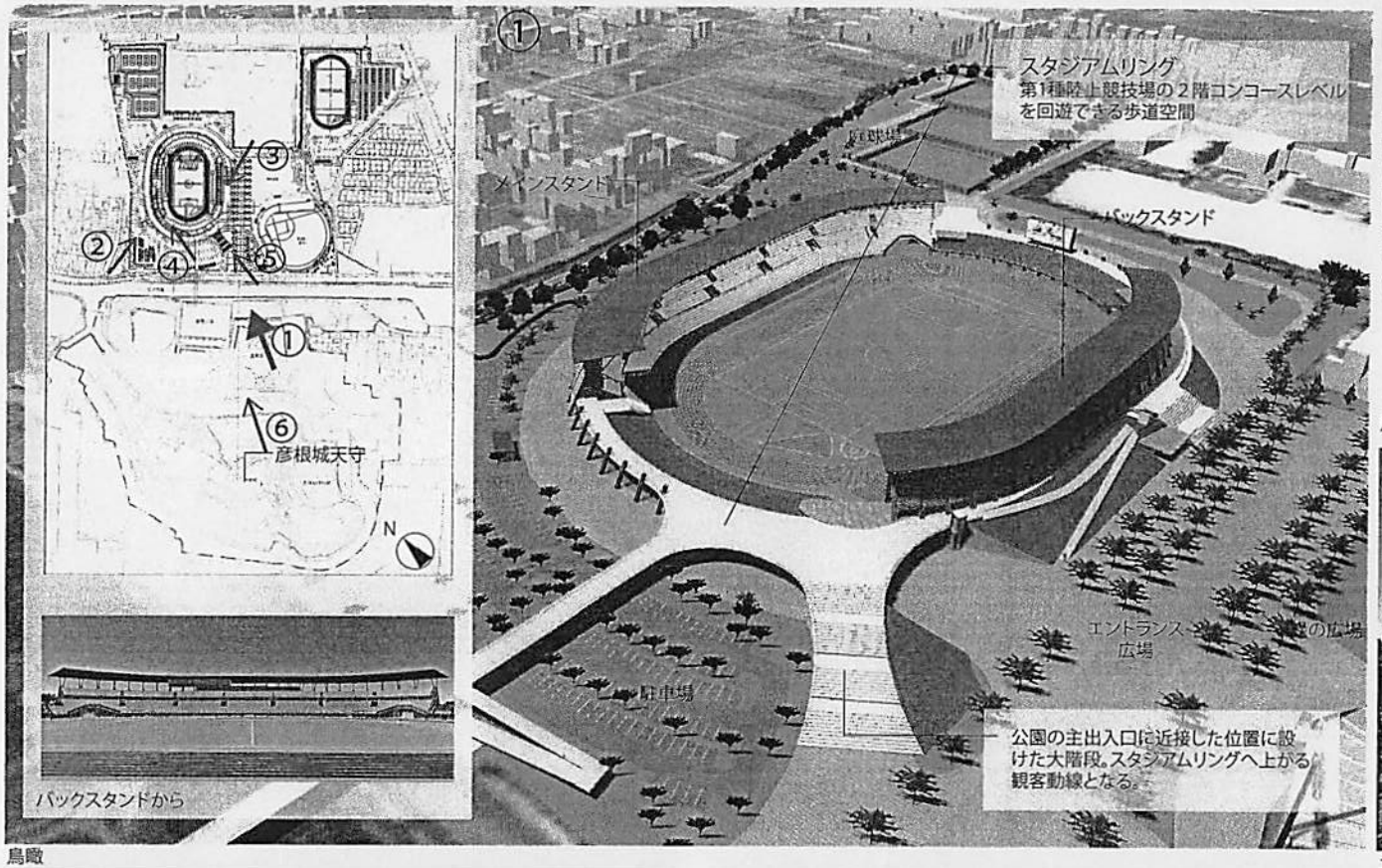
：第１種陸上競技場建築実施設計の取りまとめ

平成 31 年度　：第１種陸上競技場建設工事に着手

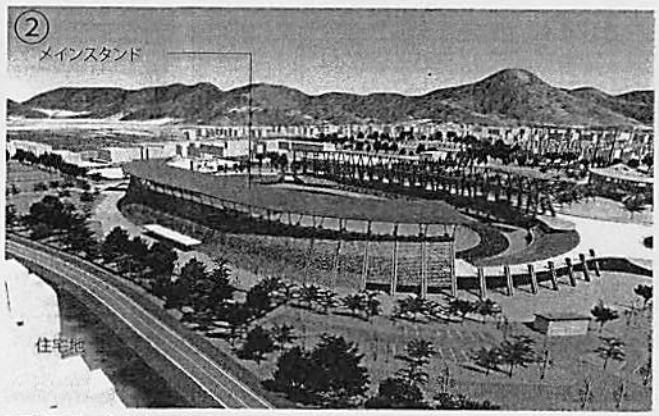
【公園整備スケジュール】



第１種陸上競技場建築基本設計パース図

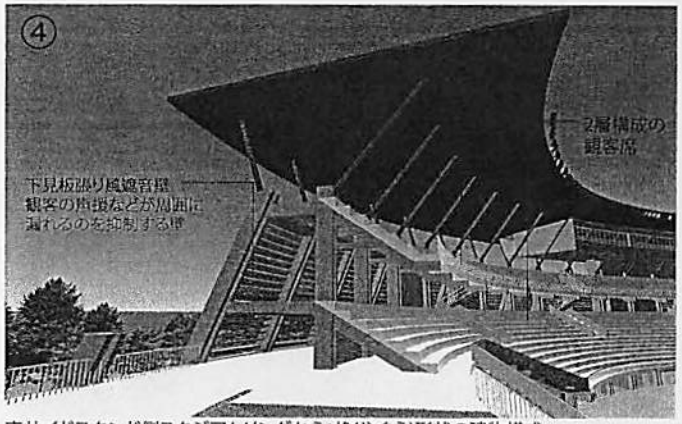


鳥瞰



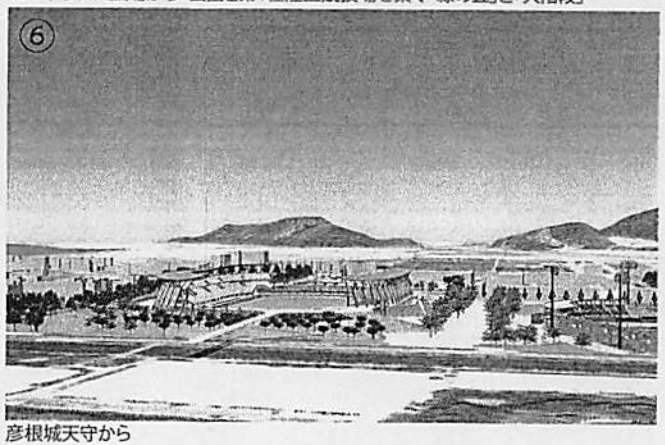
鳥瞰（西側の住宅地から）：環境に配慮した建物構成

エントランス広場から：公園と第1種陸上競技場を繋ぐ「緑の丘」と「大階段」



南サイドスタンド側スタジアムリングから：櫓(やぐら)形状の建物構成

公園の主出入口から：スタジアムリングに上がる大階段



彦根城天守から

（仮称）彦根総合運動公園整備基本設計の概要

平成28年9月

背　景

- 滋賀県立彦根総合運動場を国体主会場の施設基準を満たす第１種陸上競技場を備えた公園として再整備するため、平成27年３月に公園整備基本構想を策定し、その後、平成27年８月に公園整備基本計画を策定。
- これらを踏まえ、公園整備計画の具体化に向け、各種設計条件との整合を図りつつ、特に彦根城の世界遺産の取組や地域活性化のほか防災機能の強化等にも配慮しながら、諸施設の設計指針を明らかにするとともに、施設配置や形状、基盤施設、植栽等について基本設計を取りまとめた。

公園のイメージ

◆体力・健康づくり、夢育ての場◆多様な主体の交流の場◆歴史・文化などとの触れ合いの場

公園整備の基本的な考え方

県民のスポーツ拠点として機能を強化するとともに、世代をこえて人々に長く愛着を持って利用される多様な機能を備えた公園として、彦根城をはじめとする周辺の景観などと調和を図りながら再整備する。

A：国体開催を契機とした県民のスポーツ拠点としての機能強化

B：国体開催後も世代をこえて人々に愛着をもって利用される多様な機能を備えた公園整備

C：彦根城をはじめとする周辺の景観に調和した公園整備

基本設計の方向性（１）運動施設の整備水準

○第１種陸上競技場　①トラック・フィールド：400m×９レーン、フィールド内は多目的利用可能
②収容人員：15,000人以上（芝生席を含む。）、固定席数：メインスタンドに約7,000席
③延べ床面積：約23,000㎡　④附属施設：メインスタンドおよびバックスタンドに屋根を設置、両スタンドの屋根に照明設備（照明柱は設置しない。）　⑤諸室：更衣室、雨天走路、用器具庫、放送室、司令室、写真判定室、情報処理室、医務室、ドーピング検査室、ウェイト・トレーニング室、記者室など

○第３種陸上競技場　①トラック・フィールド：400m×８レーン、フィールド内は多目的利用可能。
②付属施設：管理棟

○庭球場　①競技用砂入り人工芝コート12面
②付属施設：管理棟、スタンド（1,000人程度収容）、夜間照明灯設置

○野球場（存置：現施設を継続して使用）

基本設計の方向性（２）公園施設等

○広場　エントランス広場や緑の広場などを配置。

○園路　幹線園路（幹線園路幅15m程度以上、補助幹線園路幅6～3m）、散策路やジョギングコース（延長約2.5km）を配置。

○駐車場・駐輪場　駐車場は約1,100台（一部芝生駐車場）、駐輪場は約380台を配置。

○植栽　彦根山や玄宮園と連続する植栽、周辺の住環境に配慮した植栽、見通しのよい植栽。

○休養、サービス施設　場内各所に休憩所（４ヵ所）や便所（運動施設利用者用以外に単独棟３棟）。

○遊戯施設　県民の健康づくりを目的に健康遊具を検討。

基本設計の方向性（３）機能強化ほか

○デザイン　周辺景観に調和したデザイン、色調とする。

○住民参画　ワークショップでいただいたアイデアのうち、芝生駐車場や水景施設などを取り入れて検討。

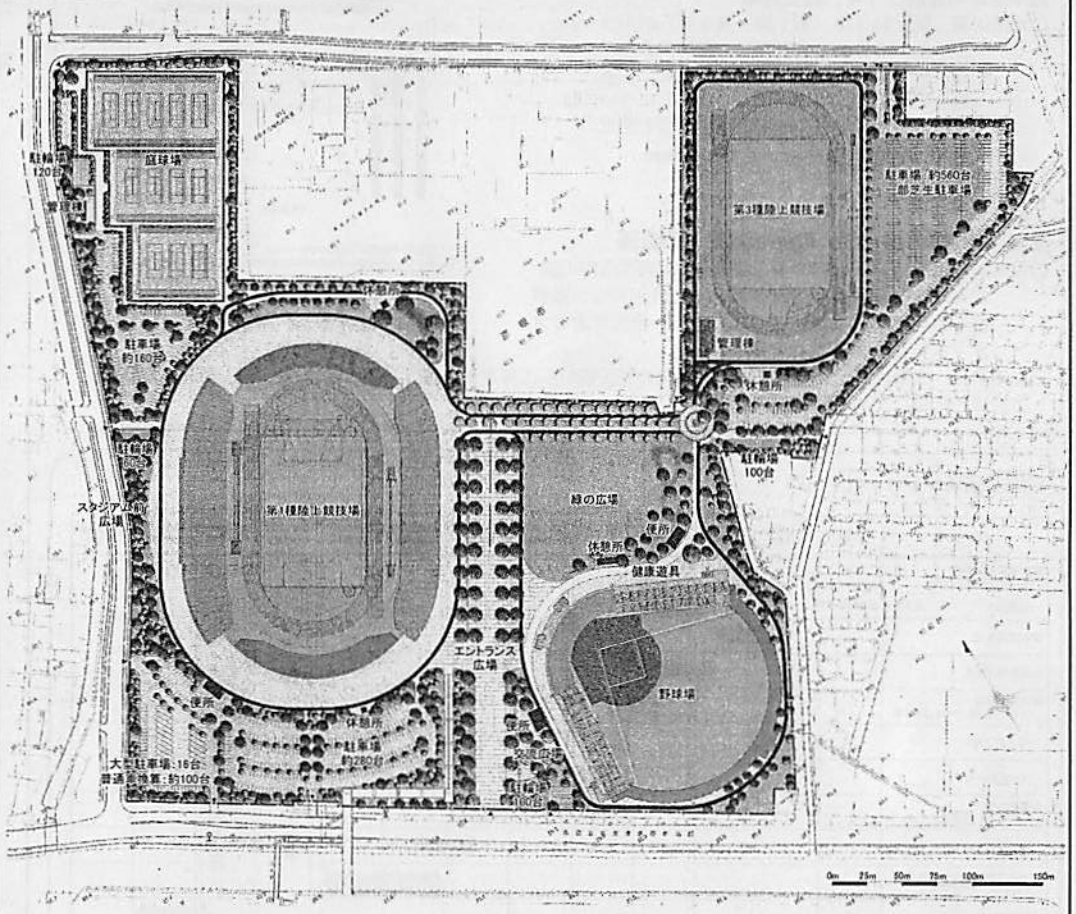
○防災　緊急輸送機能、緊急消防援助機能、避難・備蓄機能を備えた防災公園として設計（例：第１種、第３種陸上競技場、野球場をヘリポート利用、一時避難所等）。
10年確率降雨（時間雨量50㎜程度）でも浸水しない地盤高で造成。

○地域活性化・民間活力導入　整備段階：滋賀県産材を活用したベンチ等の整備、周辺観光施設等を含めたサイン設置。
運営段階：周辺のイベント（ご城下にぎわい市、ビワイチサイクルステーション等）との連携、スポーツ教室の開催、民間活力の導入（カフェ・サイクルショップ等）について引き続き検討

○金亀公園との一体利用　金亀公園と一体的な利用ができるよう施設計画や役割分担を調整。連絡橋の配置や幅員等の概略検討を実施。

○住環境に配慮した施設設計　建物の高さ抑制や、光害対策を施した照明器具、防犯に配慮した照明灯の設置等を計画、第１種陸上競技場の西側植栽地を拡幅するとともに遮蔽機能向上のため盛土を検討。

基本設計図　公園面積21.8ha（現況約14ha）



エントランス広場から彦根城を望む

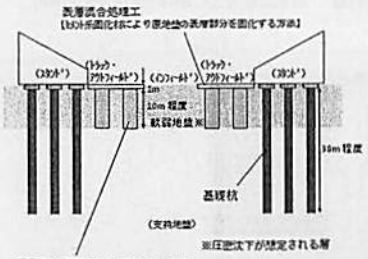
（仮称）彦根総合運動公園整備基本設計の概要

基本設計の方向性（4）地盤対策

○地盤対策　陸上競技場（第１種、第３種）のトラック・フィールド部分の地盤対策は、深層混合処理工法と表層混合処理工法を組み合わせる工法で実施。

第１種陸上競技場のスタンド建築部については、地盤調査の結果から 38m 程度の杭基礎を想定。

※今後、建築基本設計等において詳細に検討



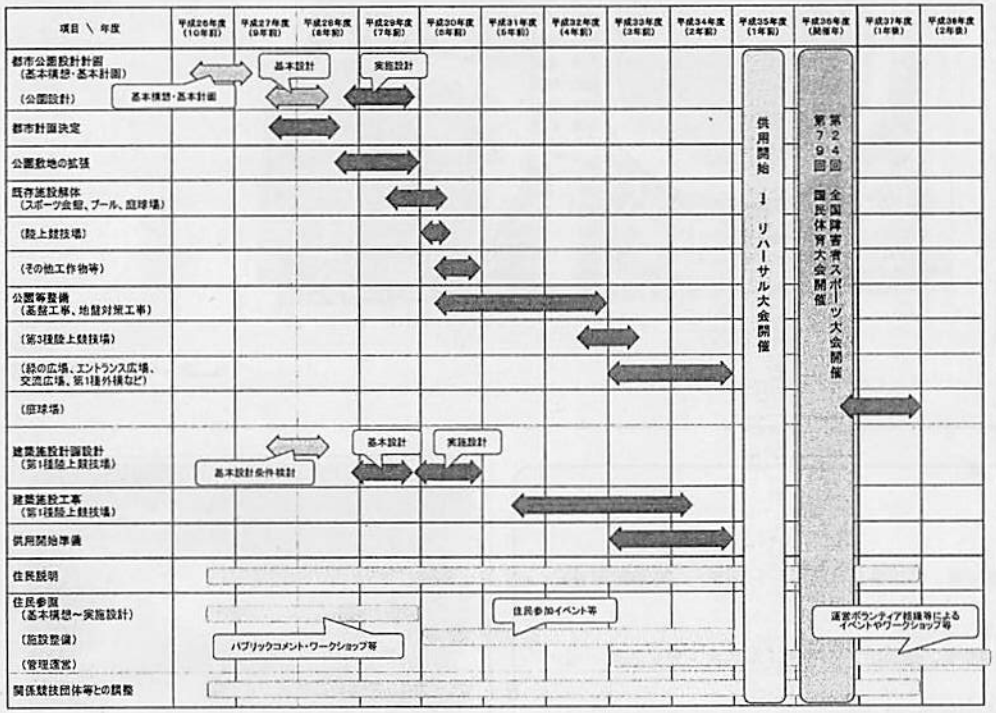
第１種陸上競技場における地盤対策イメージ

基本設計の方向性（5）段階的整備、工事計画

○段階的整備　先催県の事例等を踏まえ、国体開催時の機能や規模、配置等を想定したうえで段階的な公園整備計画を整理。なお、庭球場は国体・全国障害者スポーツ大会の開催後に整備。

○工事計画　工事は安全を最優先とし、東側拡張区域から工事着手。第３種陸上競技場、第１種陸上競技場、緑の広場など公園部の順に実施。

公園整備スケジュール



第１種陸上競技場の設計にあたっての主な留意事項

第１種陸上競技場建築検討懇話会を開催し（全３回）、第１種陸上競技場の仕様や形状、デザイン等に関する留意すべき事項について、有識者の意見を踏まえて取りまとめた。

設計にあたっての主な留意事項

1　彦根城をはじめとする歴史的な景観との調和

①競技場の高さを抑えること。
②競技場の周囲を樹木で囲んでボリューム感を抑えること。
③彦根城との連続性を考慮すること。
④彦根城天守から見下ろした際に競技場が突出しないこと。

2　彦根城天守からの景観に配慮した屋根の構造

①景観上支障となる照明柱をなくすため、スタンド両側とも屋根を架設し、屋根先に照明設備を設置すること。
②スタンド全面に屋根を架設することで座席等を隠すなどデザインについて、十分検討すること。

3　周辺地域の景観や生活環境に配慮した照明設備

①照明柱は設置しないこと。
②両側スタンドとも光害の抑制が可能となる屋根先照明とすること。

4　周辺地域に馴染む色

①周辺地域の豊富な自然に溶け込む色とすること。
②明度や彩度を低く抑え、彦根城を尊重する色とすること。
③外壁や屋根だけでなく、フィールドや座席等、競技場全体の色彩に配慮すること。

5　自然素材の使用

①擬石や擬木より本物の素材（自然素材）をできるだけ使用すること。
②屋内仕上材等に県産材をできるだけ使用すること。

6　公園整備との整合性

①建築と公園の整合がとれた景観とすること。

彦根城天守からの眺望イメージ

第１種陸上競技場の鳥瞰イメージ

概算事業費

200 億円程度の見込み（今後の公園整備実施設計や建築基本設計等の過程でさらに精査）

※内訳　第１種陸上競技場整備費　106 億円程度
　　その他公園整備費、用地補償費等　94 億円程度